



NO.3

発行人 島田尚彦
 発行所 明治大学楽友会
 編集人 長野征二
 〒101東京都千代田区神田駿河台1-1

現会員数 **976** 名

活動する 楽友会

神戸・震災・ジャズ・・・ 岩田昭治 (S39年卒/BSSO)

平成7年1月17日は、生誕忘れなごとのない深い傷跡を残した日となりました。楽友会の皆様から温かい励ましを頂き、本紙上をお借りして感謝申し上げます。

「震災」によって素敵なジャズが流れる町、神戸は壊滅的な打撃を受けました。このジャズ発祥の地で、平成2年「神戸ジャズ物語」というお芝居が10日間おこなわれ、NHKテレビで全国に流されました。末広光夫氏原作、音楽監督は秋葉義孝氏、主演に財津一郎氏といったベテラン打ち揃った楽しい舞台を現出、ジャズ発祥をコミックに演じ、紹介していただきました。

昨年で14回を数える「神戸ジャズ・ストリート」は、神戸市民の楽しみの一つで、毎年秋に異人館周辺に全国からジャズファンを集めています。神戸市と市民ボランティアに支えられてすっかり秋の風物詩として定着しています。私も数年前から首を突っ込んで、実行委員の一人として手伝っています。仕事との関わりも多少あったのですが、学生時代のフルバンドで夢中になっていた頃が懐かしく、ライブハウスや外人倶楽部のステージ脇でワクワクしながら進行をやっています。

また、毎年初夏には「全日本デイクシニランド・フェスティバル」が賑やかに催されます。こちらは古く



長崎ホットショッツの演奏
 (平成7年7月31日/神戸・六甲アイランド シェラトンホテル)
 中央のクラリネットが堤氏、左端のトロンボーンは原田靖氏(プロ)

30年もの間続けられて来ました。各地からアマチュアバンドが手井当で参集し、練習の成果を披露、年一度の旧交を温めています。平成6年の大会には昭和40年卒の堤氏の平い「長崎ホットショッツ」が出演し、高松から岡崎先輩、東京から久野先輩ら諸氏が応援に駆けつけました。その夜には緊急ミニOB会と称して酒を酌み交わすなど、心温まる思い出を作って頂きました。プロとの競演も実現、若い頃は彷彿とさせる堤氏の熱演には満場の声援が送られ、かつてはともにもバンドをやっていた私も鼻高々の思いでした。

こっぴどこんな活動を仕事の合間にやって昔を懐かしんでいる昨今ですが、阪神大震災によって神戸のジャズがしぼんでしまつては大変です。このほど実行委員が集まり、今年の秋も、ガレキの中でもいいから音を出そうと話がまとまりました。全国各地から義援金が寄せられています。地元ミュージシャンも被害を受けた人がたくさんいます。元気ないいコンサートを開いて今年の秋の

本番につなげたいと計画しています。現役、OBの方で、神戸で演奏してみようという話がありましたら、私に連絡下さい。神戸の町も復興は急ピッチで進んでいます。神戸文化の再建にも力を入れたいと思つています。

改めて楽友会の皆様のご厚情に感謝致します。

「岡山ハワイアンクラブ」

東島忠弘 (S38年卒/BH)

卒業して30余年。ゴルフ、麻雀といった趣味がなかったが、たまたま岡山にハワイアン同好会なるものがあるとの聞き二年前に入会。今、再び学生時代に逆行し、ハワイアン音楽におぼれてはいる毎日。神戸、東京から譜面は取り寄せるわ、CDは買うわ、ウクレレは買うわ(二年前間に三本のウクレレを買い、嫁さん機嫌悪し)で、押宅してもCD、テープを聴きウクレレを鳴らしながら、新しい歌をどんどん勉強したが、若い頃と違い記憶力が悪くなつており、なかなか歌詞もメモテイも、コードも覚えられない。また、目の方も少々・・・ということ。演奏会のあるときは譜面台に大きな文字で書いたコードと歌詞を乗せて歌つている。現在同好会を改め、岡山ハワイアンクラブの事務局長という要職にあり、春、秋二回のコンサート、忘年コンサートなどの準備で結構忙しい。また、会社、ライオンズクラブ、ロータリークラブ等のパーティ、老人ホームの慰問、刑務所の慰問などのボランティア活動など、年15回程度の演奏の機会がある。

現在の所属バンド名は「ブルー・ハワイアンズ」、リーダーは六十ウ歳の岡山ハワイアン界の長老で、

クラブの会長。朝五時に起床し(自然と目が覚めるらしい)、スチールギターの勉強をするというつわものメンバーは六人編成、いろんな職業の人達と仲良くやっている。



平成7年4月16日、暮の例会での演奏

クラブは会員数70名バンド改7、春、秋のコンサートには130名程の音楽好きが参加してにぎやかに、歌い、踊り(フラ)楽しいひとときを過ごす。これから、クラブをしつかりとしたものに切り上げてゆくのが私の使命。

ただ残念なことは若い人達の参加が少ないこと。ハワイアン音楽の灯を消さないように、これはハワイアン音楽をかじつたことのある人々の共通の願いではないでしょうか。

たちね会

竹下恒次 (S39年卒/MC)

「たちね会」は所属バンドに関係なく出来た、昭和39年卒業の明治大学音楽部の同期会である。

その歴史は古く、卒業翌年の昭和40年の伊豆長岡温泉旅行を皮切りに年一回の旅行、年二回の都内での会食を続けてきた。
しかし、当番幹事の転勤等でご数年は会も途絶えていたが、同期の多田光宏氏(B.H.)が昭和62年に死去、その葬儀の際に、会再開の気運が高まってきた。が再開を具体化する迄には至らなかった。



そこに今回の阪神大震災。神戸には我々の同期の岩田昭治氏(Boss.)がいる。会員皆心配していたが、連絡を取り合つうちに、急遽集まる事で話がまとまり、平成7年2月24日、新橋で久しぶりに「たちね会」を開催した。当日は連絡が急だった事もあり、都内および近隣の8名が集まり、お互いの頭と腹を見てそれぞれ安心?納得していた様子。
そこで無理の無いところで年一回会を持つ事で一致、次回を平成7年12月9日に決めた散会した。

我が「音楽歴」



川合高徳
明治大学文学部教授
経営音楽クラブ部長
楽友会名誉会員

前口上
原稿のご依頼を受けましたので、自己紹介の代わりに、小生のささやかな音楽遍歴(と申すのも、おこがましい程度のもの)を記して、貴を果たしたいと思えます。

第一章

物心ついたのが、太平洋戦争の真つ中で、世の中、音楽どころのご時勢ではなかったのですが、ラチオ(確か当時はこう書いたと思います)から「お山の杉の子」という歌が、男声と女声の掛け合いで、よく流れていました。これが思い出せる限り最古の音楽的記憶です。(余談ですが、その頃のラチオには、アンテナ線とアース線というものが必ずついていておりました。それに因って今でも不思議なのは居間の窓から地中に伸びているそのアース用の針金を、昼間避んでいる時に、いたずらして指でピンとはじくと、その晩、家でラチオを聞いている時、必ずギヤーツと雑音が入るので、二度はじけば二度入る。三度以上は、遠慮して試みませんでした。あれは単なる偶然だったのか、今もって不思議です)。

第二章

さて終戦後、住宅事情の逼迫

から、さる老声楽家女史が一つ屋根の下に住む事となりました。この人が面口半分にか、退屈しのぎにか、幼き小生に英才教育と称して音階練習を施したのです。彼女がオルガンでドミソ、ドファラ、シレソ(だったかな)のどれかを弾く。こちらは、それに合わせて「ドオミイソ」とか歌うわけです。これがまあ苦痛以外の何物でもなく、しかもどの音階も何度聞いても、多少音の高低はあれども、結局みなドミソと聞かえるのであります。それで、どの音階が来ようが「ドオミイソ」と歌うわけですが、なぜか「みい」の部分が一番高くなつて、しまう。つまり今思えば、ドレドの音程でドミソと発声していた訳です。そんな次第で、たちまち女史の音感教育は頓挫し、おかげで魔のドミソからは解放されたのですが、こちらはすつかり音楽嫌悪症に陥るとともに、自分には音感というものが完全に欠如しているのだという、深い挫折感を生じ心に味わつたのであります。(ご依頼の紙幅を早くも越えてしまいましたので、以下はまたの機会に譲りたいと思います)



根本孝
明治大学経営学部教授
B.S.S.O.部長
楽友会名誉会員

オランダとジャズ

ジャズといえはアメリカ、そしてニューヨークでしょうが、

そしてお好みのあの店とか。しかし上海のジャズもなかなか粋な響き、もちろんヨーロッパも捨てたものではございませんよ。そしてヨーロッパの田舎、小国オランダのジャズも見くびらないでください。ジャズ界の大家が勢揃いする世界ジャズフェスティバルも毎年開催されているのはご存じの方もおられるでしょう。しかし毎年日本のバンドが最優秀賞の榮譽に輝き続けているマーストリヒトのフェスティバルはご存じの方は少ないでしょう。マーストリヒトといえはあのE.C.統合のマーストリヒト条約の締結がなされた地なのです。そして、ここで開催される音楽フェスティバルは参加バンドすべてが最優秀賞を獲得する、平和なフェスティバルなのです。世界一の貿易港、ロッテルダム港に千人のドラマーが集まり、野外のステージでドラムの競演を繰り広げるといふジャズフェスティバルも真夏に開催されます。それはもう、ものすごい迫力というか、花火の音、番の音どころか、爆弾の音というか、まさに「真夏の夜の夢」の音なのです。(経営学部で国際経営論を担当しておりますが、こんな研究もしております。とりわけオランダにかぶれ、エッセイ集の「オランダ豊かさ事情」「オランダ生活物語」(同文館発行)も出版し、現在3作目を執筆中です)。

相続の相談・会社の設立

清谷卓司税理士事務所

〒233 横浜市港南区日野中央三丁目42番5号
TEL.045-(831)8325 FAX.045(831)3546